

奥多摩の山



# 奥多摩

《第33号》

平成26年4月15日  
奥多摩観光協会



木版画 安藤隆二

## ～観光案内所から～

奥多摩町の観光案内所は、奥多摩駅前であり、年末年始がお休みで、年中無休で開館しております。案内所窓口でのエピソードをいくつかご紹介します。

しばらくぶりに登山靴をはいたら、底がはがれて駄目になったので「靴屋」はないですか。また、自然豊かな空気の良い奥多摩に住んでみたいが「不動産屋」はないですか。ケイタイの充電をお願いしますとか。最近、海外からのお客様も多く、身振り手振りで四苦八苦しながらお話しします。なんとなく通じた時は「ホッ」とします。

一番困るのは、お昼過ぎに来て川苔山へハイキングに行きたいのですが…。また、滝を見に行きたいのですがと、簡単に、気軽な服装で来られる事。

「奥多摩の山は、本格的に準備して地図を持ち、装備もしっかりして来ないと、危険なんですよ。」とお話しします。

「奥多摩の山岳遭難過去最悪に」という記事を目にすると、元青梅警察署山岳救助隊副隊長・金邦夫さんの著書「奥多摩登山考」の中の「体を鍛える為に山に登るのではなく、体を鍛えてから山に登る」という一節を思い出します。

私達も機会をみつけて、奥多摩の山に登り、名人達人ガイドの方たちからのアドバイスをいただき、窓口での最善の案内ができるよう、頑張っていきたいと思えます。

山開きが、この4月6日に行われますが、くれぐれも事故のないことをお祈り申し上げます。

(一般社団法人奥多摩観光協会・案内所スタッフ)

# ～どっておきの山歩きガイド～

## 棒ノ折山に登ろう

関東ふれあいの道「水源のみち」になっている棒ノ折山(969m)の登山口は、飯能方面から、白谷沢、陽基入り、小沢峠からです。飯能駅からバスが出ているので、都心からの登山者はかなり多い。

奥多摩からの登山口は、青梅線川井駅から上日向行のバスに乗り、清東橋下車がもっともポピュラーなコースです。棒ノ折山の名前は、畠山重忠の杖が折れたからという伝説にあります。

バス終点から大丹波川に沿った奥茶屋林道を百軒茶屋、さらに行くとも奥茶屋のキャンプ場が見えてきて、そこが登山道の入口になります。

橋を渡ってワサビ田沿いの道を1時間ほど行くと、山ノ神がありここまでは楽々です。この辺りで一息入れて、その先は急な登りで、雑木林の尾根に出るまでちょっときつい。雑木林から展望が開けて、川苔山方面が見えます。杉林の急な登りが続き、まだかまだかと思っていると、ひょっこり山頂の左肩に出ます。山頂は広々とした平地になっており、ベンチやあずま屋があり、眼下に名栗湖の青々とした水面が見え、北方には奥武蔵の山々が連なっています。山頂から東へ、標高差70mの急降下は、雪解けの頃はぐちゃぐちゃで歩きにくい。ほどなく権次入峠となり、ここから名栗方面に岩茸石という地点があります。十数年前に、遠足の小学生達が道に迷い一晩山中で過ごした。なぜ迷ったか、それは黒山の先に岩茸石山があり、そこは高水三山の一つ。そのコースに出る予定が、思い違いか何かで、岩茸石に行ってしまったのです。

権次入峠から岩茸石までは、低山ながら小ピークがいくつもあり、途中、名坂峠から北川橋への道は狭く、ガレ場があり注意が必要です。また、上成木に下山するコースもあります。

棒ノ折山から岩茸石山まで2時間、更に青梅線の御嶽駅、沢井駅、軍畑駅に出られます。

川苔山から日向沢の峰、棒ノ折山コースは健脚向きでおもしろいです。

(原 明子)

## 登計のセラピーロードともえぎの湯

奥多摩駅前の道を左折し、信号機のある5差路を右折し、奥氷川神社に向かいます。神社の境内を抜けて氷川小橋を渡り、道を左にとり多摩川にかかる登計橋へ。この辺りはゴロゴロ道です。登計橋を渡って右の道を上がって行きます。舗装路に出たら左へ、そのまま進むと登計の運動場です。

前方左にセラピーロード入口が見えます。セラピーの白い建物(第一ステーション)脇の道をゆっくりと登って行こう。春先には、ワラビが顔を出しています。緩い登り坂は身体にやさしい。道一面にチップがしいてあり歩きやすいです。途中トイレがあります。セラピー用の建物を抜けて少し行くと、ちょっとした広場にでます。グループで休める場所です。そこから10分も歩くと登計林道に出ます。右は愛宕神社、左へ下ります。少し歩くと廿三夜塔が見えます。その先右に奥多摩駅方面の標識があるのでそちらに入ります。杉林の間のほぼ水平の道です。10分程で十字路にぶつかります。そのまま直進します。小道が終ると道は、まっすぐ下に降りていくがここは右折します。白鬚神社の先を左折、ここにも廿三夜塔があります。舗装路に出たら左折、すぐ右にもえぎの湯に入る小道があるのでここに入ります。

もえぎ橋を渡って階段を登るともえぎの湯はすぐです。もえぎの湯は、露天風呂からは愛宕山、直下には多摩川の雄大な流れが眺められます。

尚、案内コースは「奥多摩山里歩き絵図」にあり、順路から、9大氷川 12南氷川 13常盤 10長畑に掲載されていますのでご参考まで。(杉浦 重明)



皆で寄り合って  
月の出を待ちながら  
飲食をした信仰の  
一つです。

## ～ 「四季つれづれ」 その5 ～

### 「富士山の突風」

昨年の5月のことである。世界遺産に登録される前の富士山に登り、ヒヤリ、ハットの体験をしてきたのでそのことを紹介したい。

昨年ゴールデンウィークが終わってすぐ奥多摩町原に住む登山家、山野井泰史、妙子夫妻から、「富士山に行かないか」と声が掛かった。山野井くんは6月に1ヶ月かけてペルー・アンデスの5000級3つの山へ友人の野田賢くんとふたりで登攀に向かう。その高所順応のため富士山頂で泊まるのだという。

5月7日朝、山野井夫妻と私の3人は山野井くんの車で奥多摩を出発、昼ごろ富士宮口の5合目に着き登山を開始した。5合目からは雪に閉ざされた山頂への道を登り出す。高曇りの、ますますの穏やかな日であった。下山してくる人たちが何人かいたが、今頃から登り出す私たちを不思議そうに見ていた。

馬力のあるふたりには遅れ気味だったが、午後6時ころには山頂に着き、雪に埋もれた山小屋のそばに、腰の高さほどの風よけの雪ブロックが片側に積まれていたので、その間にテントを張った。我々の他には全く無人の静かな山頂であった。テントに入り妙子さんの作ってきたうどんを温めて夕食を済ますと早々に互い互いでシュラフに入った。

静かな夜が急変したのは午前0時前であった。風が出てきた。それも半端な風じゃない。テントを飛ばすような風が1・2分置きに吹いてくるのだ。下の方で「ゴーツ」と鳴ると、テントを「バタバタ」と揺すり潰しにかかる。とても眠るどころでない。半身を起こし何とか潰されまいとテントを押さえる。冬富士の突風はつとに有名だ。多くの登山者がその突風のため命を落としているし、私の親しい友人もその中のひとりだ。以前山野井くんは高所トレーニングを兼ね、冬の富士山測候所へ荷上げアルバイトの強力を長年やっていた。その間30kgの荷を背負ったまま何度か突風に飛ばされ、一度は足を骨折して入院した経験があるから、富士山の風の怖さは人一倍知っている。

突風は止む気配もなく同じ波長で1・2分置きに襲ってくる。風速は35mほどだろうか、立っていることなどできない強さである。必死に闘っていた午前2時ころ、「バタバタ」ときて「バンッ」と音がすると風が勢いよくテントの中に入り込んできた。何が起きたか分らなかったがテントが「バタバタ」と上下する。テントの天井から星が見えた。「おっ、ヤバイぞ。天井が破れた」。もうとっくにフライシートなどは飛んでしまっていたのだ。3人ともヘッドランプを点け、「とにかく靴を履いてテントから出よう」と山野井君。ひとりずつ靴を履き荷物の全てを外に出した。「アックスとアイゼンは飛ばされないように」と3人は外に出て、カチカチに氷った風よけブロックの陰に身を寄せた。気温にしたってマイナス10度はあるだろう。

「ゴーツ」と風が鳴って、「バツ」と一瞬のうちにカラのテントが暗闇に持っていかれた。荷物を全部出しておいてよかった。3人は風よけブロックにもたれかかり、靴を履いたままシュラフに入った。私はシュラフカバーを着けようと足を入れたとたん突風が襲い、迂闊にもカバーを剥ぎ取られ闇の中にさらわれてしまった。3人はシュラフに入った体を寄せ合いブロックにもたれたまま風に耐えていた。

夜が明ければ風も弱まるだろうと朝を待った。日は登った。靑空もみえてよく晴れたのだが、ゴーゴーと風は一向に弱まることはなかった。妙子さんが「こんさん、ケータイで今日の富士山の天気予報は聞けないの」と言う。私のガラ携では知ることができないので山岳救助隊の佐藤隊員にメールで問い合わせた。しばらくしてメールの返事が来た「富士山の天気はしばらくは晴れ。風は18時まで20～25m、明日6時までは20～15m」だという。今日中は風も止みそうにない。もう1日シュラフに入り座ったまま頑張るしかないか。

私はジッとして座ったまま、山頂はまだまだ立っていないほどの強風だが、富士宮登山道は南斜面だから、少し下れば風も弱まって下ることができるのではないかなどと楽観的に考えていた。

## 私の好きな「山の本」

山野井くんがシュラフから這い出てアイゼンを着け、「雪洞を掘れるところがないか探してくる」と言って、四つん這いで小屋の裏側に回って行った。しばらくして山野井くんは戻ってきた。火口なら雪の柔らかいところがあり、そこなら雪洞を掘ることができるかもしれないと見に行ったのだが、風が強く飛ばされそうになり雪洞は諦めて平場をダブルアックスで戻ってきたのだという。

午前10時半になった。風はまだ強い。そこへ山頂鳥居の陰から、若い男性登山者がひょっこりと現われた。「いやあ、山頂の風はひどいですねー」と言う。「下は大丈夫だったですか」と聞くと、富士宮口から登ってきたという山慣れた装備の登山者は「9合目から下はたいした風ではなかったですよ」と言う。「よし、下ろう」。3人は素早く装備をまとめザックに詰め込んだ。そしてアイゼンを着け、姿勢を低くして富士宮登山道に回り込んだ。上部は少し青氷になっていたが、ガイドライン沿いの登山道は適度にクラストしていた。立ち止まっては強風をやり過ごし、9合目まで下ると風はグンと弱まった。山野井くんも9合目までが勝負だと思っていたらしい。それからは青空の下の弱まった風の中をのんびりと下り、お昼ころには5合目の車に下山したのだった。先ほど単独で登ってきた若者も、山頂の風に驚いたかすぐ下山してきた。

強風でテントの天井に穴が開き、そのテントも飛ばされ、富士山頂の外で震えた3人の顛末であった。

その10日後、山野井くんは遠征のパートナーである野田くんと、再び富士山に高所順応に出かけた。すると山頂直下のガイドロープに、先日飛ばされたボロボロのテントが運よく絡まっていて発見された。山野井くんはその全てを回収して下ろしてきたという。

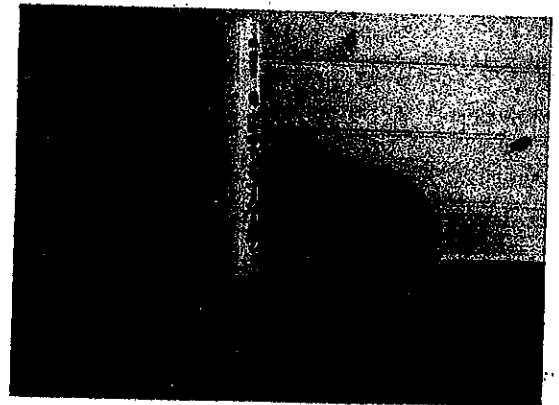
そして6月、山野井泰史、野田賢のペアはペルー・アンデスに遠征し、初登攀を含む3つの岩壁と氷雪壁の登攀に成功したのだった。それらの登攀は、記録的な登攀をしたアジア人に与えられるピオレドール・アジア賞に推され、韓国のソウル市で表彰された。

(元 青梅警察署山岳救助隊副隊長 金 邦夫)

山歩きが好きで、今でも友人たちと月1回、〇週の〇曜日と決めて低山歩きを楽しんでいる。同じように学生のころから「山の本」を読むのが好きだった。どれか一冊をと言われたら、まよわず熊谷樞(かや)の「山みちを一人で歩く」(二見書房 昭和50年)を選ぶ。この本のどこが面白いかというと、前半部分、夫婦で山を歩いている時、夫の大野氏と樞さんの喧嘩が絶えない。そんな中での自然の描写。中盤ではいよいよ修復不可能か、というところでの山行の様子。終盤での一人ぼっちの山行、その時々的心情が飾りなく素直に書かれ、読み終えた時には樞さんのファンになっていた。それまで「山の本」というと雑誌アルプ(創文社 昭和33年~昭和58年)にイメージされるように哲学的で敷居が高く感じられたが、樞さんの文章はその敷居を一気に下げてくれた。

日本画家、熊谷守一氏の次女である樞さんの本業は画家である。よく新宿の小田急デパートで個展を開いていた。雪の上に投げ出した登山靴の絵が6号か8号の大きさと、10万円だった。学校を卒業して就職したばかりの私の給料は9万6千円、とても買う度胸は無かった。あの時無理をしてでも買っておけば、と今でも思う時がある。北アルプスの燕岳にある燕山荘には畦地梅太郎の版画と並んで、樞さんの絵をたくさん見ることができる。

先日、久しぶりに熊谷樞さんの新刊本「山々を滑る登る」(白山書房 平成24年)を読んだ。樞さんは85歳になっていた。(名人・達人奥多摩ガイドの会々長 原島 俊二)



熊谷樞著「山みちを一人で歩く」

# 平成26年度 イベントカレンダー (奥多摩町観光協会)

奥多摩町奥多摩観光協会では、今年度も、会員様限定で下記のようなイベントをご用意しました。お気に入りのイベントに参加され、爽やかな空気、緑、清流に触れ、奥多摩の素晴らしさをご堪能下さい。特に、今年は従来には無かったスペシャルイベントも盛り込みましたので、かならずやご満足いただける事と思います。会員以外のお客様の参加は、観光協会に問合せ下さい。(裏面もご覧下さい)

すべてのイベントには、「奥多摩観光協会 名人・達人観光ガイドの会」のベテランガイドがご案内いたします。

参加希望者は、往復はがきに参加したいイベントの「No. 会員No. 住所・氏名・電話番号」を明記のうえ、奥多摩観光協会宛にお送り下さい。ただし、応募ははがき1枚で1名までとし、募集人員をこえた場合は抽選となります。募集人員を超えてお送り下さい。

参加費は、特に記載がない場合は、保険料等 700円となります。(路線バス等で移動を伴う場合の費用は各自負担となります)

一般社団法人 奥多摩観光協会  
〒198-0212 奥多摩町 水川 210  
電話 0428-83-2152

No.	タイトル	目的 地 or コース	開催日		募集人数	種別	予定所要時間
			月/日(曜日)	時間			
1	奥多摩・山開き式 (自由参加)	奥多摩駅前の大木戸稻荷神社における式典	4月 6日(日)	8:00	-	-	-
2	春の花めぐり	川井駅～大丹波川流域	4月 11日(金)	9:00	20	ハイキング	5時間
3	棒ノ折山	川井駅～清東橋～棒ノ折山～名坂峠～川井駅	4月 18日(金)	7:20	25	登山	6時間
4	ネイチャーガイド	奥多摩駅～コースは秘密	4月 23日(水)	8:30	20	ハイキング	5時間
5	セラピーウォーク(むかし道)	奥多摩駅～奥多摩むかしみち(町主催 500円)	4月 29日(祝)	-	-	ハイキング	4時間
6	奥多摩三山シリーズ① 御前山	奥多摩駅～小河内ダム～小河内峠～御前山～境橋	5月 8日(木)	8:10	25	登山	7時間
7	シロヤシオを訪ねて	御嶽駅～御岳山～奥ノ院～鍋割山～鳩ノ巣駅	5月 13日(火)	8:20	25	登山	6時間
8	奥多摩湖右岸 (いこいの路15km)	奥多摩駅～峰谷橋～山のふもと村～小河内ダム	5月 22日(木)	8:10	20	ハイキング	5時間
9	新緑の六ツ石山	奥多摩駅～水根～六ツ石山～三ノ木戸～奥多摩駅	5月 28日(水)	8:10	25	登山	7時間
10	奥多摩むかしみち	奥多摩駅～奥多摩湖～むかし道～奥多摩駅	6月 3日(火)	8:10	20	ハイキング	4時間
11	高水山から名坂峠	軍畑駅～高水山～岩茸石山～名坂峠～川井駅	6月 12日(木)	8:15	25	登山	6時間
12	日原林道の巨樹と倉沢のヒノキめぐり	奥多摩駅～日原林道～倉沢～奥多摩駅	6月 18日(水)	8:05	20	ハイキング	5時間
13	山里歩き① 峰集落	奥多摩駅～峰谷橋～麦山林道～峰集落～峰谷橋	7月 1日(火)	8:10	20	ハイキング	6時間

イベント

No.	タイトル	目的の地 or コース	開催日		募集人数	種別	予定所要時間
			月/日(曜日)	時間			
14	涼風の海沢三滝めぐり	白丸駅～海沢～大檜峠～鳩ノ巣駅	7月16日(水)	8:40	20	ハイキング	5時間
15	鷹ノ巣山	奥多摩駅～稲村岩～鷹ノ巣山～浅間尾根～奥～鳩ノ巣	7月24日(木)	8:05	25	登山	7時間
16	奥多摩三山シリーズ② 三頭山	奥多摩駅～鳩ノ巣山～三頭山～都民の森	7月30日(水)	7:30	25	登山	7時間
17	神庭の夜神楽	※解散21:30 白丸駅～神庭(神楽見学)～奥多摩駅	8月2日(土)	18:20	20	ハイキング	-
18	夏休み親子体験 養殖体験と虹鱒釣り ※注③	白丸駅～さかな養殖センター～つりぼり～奥多摩駅	8月9日(土)	10:15	20組	-	5時間
19	親子ハイイク 御岳山とロッカ・デーン ※注④	御岳駅～滝本(カブノ)～ロッカ・デーン～丹三郎～古里駅	8月21日(木)	8:20	25組	登山	6時間
20	川苔山	奥多摩駅～川乗橋～川苔山～鳩ノ巣駅	8月29日(金)	8:05	25	登山	7時間
21	山里歩き② 小丹波・棚沢	古里駅～鳩ノ巣の奥周辺	9月12日(金)	8:30	20	ハイキング	5時間
22	奥多摩三山③ 大岳山	御岳駅～大岳山～奥多摩駅	9月18日(木)	7:50	25	登山	7時間
23	越沢渓谷の巨樹を訪ねて	古里駅～寸庭～松ノ木尾根～巨樹～鳩ノ巣駅	9月25日(木)	8:30	20	ハイキング	5時間
24	三ツドッケ(天目山)	奥多摩駅～東日原～ヨコガサ尾根～三ツドッケ～東日原	10月2日(木)	7:30	25	登山	7時間
25	本仁田山頂から眺望を楽しむ	奥多摩駅～安寺沢～本仁田山～鳩ノ巣駅	10月7日(火)	8:10	25	登山	7時間
26	山のふるさと村トレイル散策	奥多摩駅～鳩ノ巣山～浮橋～山ふる村～奥多摩駅	10月21日(火)	8:10	20	ハイキング	5時間
27	紅葉真っ盛りの倉戸山と大麦代	奥多摩駅～女の湯～倉戸山～大麦代	10月31日(金)	8:10	25	登山	6時間
28	紅葉の倉沢渓谷を歩く	奥多摩駅～日原方面～倉沢林道終点・魚止橋	11月6日(木)	8:05	20	ハイキング	5時間
29	紅葉の鹿倉山を訪ねる	奥多摩駅～陣屋～大寺山～鹿倉山～小菅	11月14日(金)	7:30	25	登山	7時間
30	奥多摩むかしみち	奥多摩駅～むかしみち～奥多摩湖	11月20日(木)	8:10	20	ハイキング	5時間
31	ゆっくりじっくり自然観察	奥多摩駅～境橋～新奇～体験の森～境橋	11月25日(火)	8:10	20	ハイキング	5時間
32	バードウォッチング	奥多摩駅～鳩ノ巣山～浮橋～山のふるさと村	12月3日(水)	8:10	20	ハイキング	5時間
33	バードウォッチング	奥多摩駅～コース秘密(お楽しみ)	3月12日(木)	8:10	20	ハイキング	5時間
34	早春の多摩川自然散策	軍畑駅～沢井～御岳～川井駅	3月25日(水)	9:10	20	ハイキング	5時間

【注意】

- ① 天候等の状況により、目的の地 or コースは変更する場合があります。
- ② 最少催行人員は5人です。(5名未満の場合は中止とさせていただきます)
- ③ 「イベントNo.18」については会員の同伴が必要です。お子様の年齢は原則5歳以上とします。入会不要ですが、虹鱒釣り料金が必要です。
- ④ 「イベントNo.19」については会員の同伴が必要です。お子様の年齢は小学4年生以上と限定させていただきます。また、会員の単身参加も可能です。

正月行事つづき

15日 女正月 小豆粥(あずきがゆ)

この日は、どこの家でも小豆粥をつくり、神前や門の棒へ進げてから食べました。この粥は、小豆の他にまゆ玉も入れ、カツノ木の粥かき棒でかきまぜながら炊きますが、棒の先の割れ目につく粥の多少によって、農作物の豊凶を占ったといわれています。

なるべこ(木まじない・成り木賣め)

なーるべーか、なるめーか、なーともーす、なるからかんにんおしゃーれ、おおこたいしょう、おこたいしょう(大丹波)、なーるか、なーるか、ならねーか、ならなーけりゃ、ぶっきるぞ(日原)

15日の早朝、父親につれられた子どもが、家の付近の柿、栗、梅、梨などの果樹(なりずもく)の幹を鉈(なた)のみねでたたきながら豊作を願うまじないを唱えました。

16日 墓参

米、水、線香と正月中に仏壇へ進げた供物を持って、お墓参りに行きます。

17日 山の神まつり

山仕事に携わる人たちは、仕事を休んで、山の神のお祭りをしました。この日は、山の神の祠や山道の要所へ御幣を立て、竹筒へ酒を入れ杉の葉をさした酒瓶や饌米を供えてから、山持や親方の家、或は炭焼きをする人たちは当番宿に寄りあって、それぞれ地域色

のある料理、御幣餅、うどん、ケンチン汁、煮物等を作り、酒をくみかわしてお日待ちをしました。

現在も山林関係の人たちは、毎月17日は、仕事を休み山のお祭りをしています。この日は、山の神が一日狩りをする日とか狩りをした後の矢を拾い集める日とかいわれ、山入りを避ける慣習がありました。

小丹波には「一口かり」という伝説があります。

昔、妻戸山から赤久奈山にかけて小丹波村共有地の広いカヤトがあり、若し間違えて17日の山の神の日に萱刈りに入る者は、必ずいなくなるといわれていました。その日には、魔性のものが現れて、これに見つかったが最後、逃げても隠れても一口に食われてしまうということでした。

盆の17日に一人の村人が共有地のカヤトで葦を刈っていると「一口に食うぞ。」と叫ぶ声がしました。村人は、食えるものなら食ってみるとばかり、作業をつづけていると突然、えたいの知れない恐ろしいものが現れました。驚いた村人は、鎌を放り出して夢中で家まで逃げ帰りましたが、3日3晩うなされながら、この世を去ったといします。

[資料]奥多摩町誌、広報おくたま  
(奥多摩郷土研究会会員 岡部 義重)

この木なんの木

木曾五木のこと

右の図は、五種類の針葉樹の葉裏の一部を拡大したものです。白抜きの部分には空気が入りする小さな穴(気孔)が集まっていて、そのまわりにロウが分泌しています。ところで、この五つの樹木にはどんな意味があるのでしょうか。

長野県の本曾一帯の山には、昔から天然ヒノキが沢山生えていました。長いこと続いた戦乱がおさま江戸時代に入ると、世は未曾有の建築ブームを迎え大量のヒノキが伐採されました。そのような世相の中、尾張藩は木材資源の枯渇を憂えて、1665年に厳しい森林保護政策を打ち出し、「ヒノキ一本、首一つ」の掟をつくりました。その後、ヒノキに似ていて誤伐されやすいサワラ、アスナロ、ネズコに材質が優れたコウヤマキを加えて「木曾五木」として禁伐の対象にしました。

奥多摩でも、唐松谷や長沢山から雲取谷にかけての尾根には立派なヒノキの天然林があり、雲取山の斜面の崩落を防ぐために、以前から禁伐としてきたそうです。(日原在住の山崎信三さん談)。

ネズコ(クロベ)は天祖山、アスナロは鷹ノ巣山と奥多摩湖南岸(旧高尾自然科学博物館研究報告書1984)とありますが、いずれも奥多摩では身近に目にすることは稀な樹木です。



図を見てください。葉の裏側の特徴は微妙に違いますが、実際に表側を見るとコウヤマキを除いては、本当によく似ています。ヒノキと誤伐しかねませんね。

首を切られないための「木曾五木」の覚え方ですが、図の五本の頭の字を順に並べると、ア・サ・ヒ・ネ・コとなります。これに遊び心を加えて「朝日猫」にしたらという人がいました。覚えていただけましたか。

(橋上一彦)

## ガイドだより

### ～奥多摩・そぞろ歩き～

奥多摩駅に降り立つと、昭和時代の町が目の前に現れます。何故か懐かしい風景が広がっています。

駅前の案内所で「奥多摩山里歩き絵図」が用意されています。犬も歩けば棒に当たる…で色々な発見があります。花は、里では春一番に咲くミツバツツジ、ミツマタ、オオイヌノフグリの花。沢沿いでは、マンサク、バッコヤナギ、アブラチャン、キブシ。山を歩けば、カタクリ、アツマイチゲ、シロバナエンレイソウなどに会えます。動物は、カモシカ、シカ、サル、リス、ムササビも棲んでいます。ひよっとしてカモシカに会えるかも。

散策には、氷川渓谷遊歩道、愛宕山周辺、登計グラウンド周辺など。温泉もあります。そして、たくさんのお神様・仏様に会えます。いまだきのホットな所か。例えば馬頭観音は、馬主などを守護しますが、今では交通安全の仏様。庚申塔は、文字塔と青面金剛像があり、一晩中眠らずに過ごして長寿を願いました。また、廿三夜塔があります。江戸時代から造られ、明治時代が盛んだったそう。月の出を待つ行事でした。虫歯になれば虫歯地蔵にお願いをしました。いわゆるお地蔵様。右手に錫杖を持ち、六道を廻って邪悪を祓い、左手に如意宝珠をもち、あらゆるお願いを叶えてくれる。子育て、延命、火防せ、虫歯地蔵など。お寺の入口では、六地藏様が出迎えてくれます。

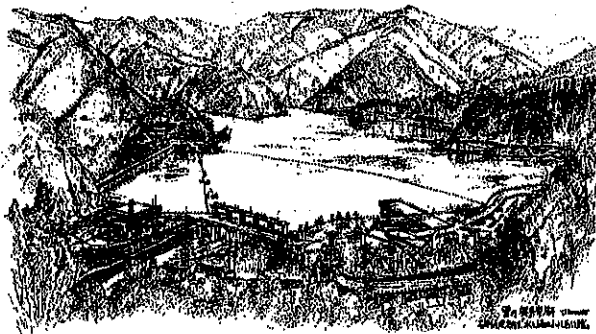
奥多摩湖まで行くと展望がひらけます。小河内ダムがあります。東京都民の水ガメとして建設されました。北側に、見はらしの丘があり、遅い春ヤマザクラが咲きます。南側は、いこいの路が山のふもとと村まで歩けます。新緑の時がすばらしいです。

また、ダム湖底に村があった頃、鶴の湯という温泉がありました。現在、湖底から汲み上げて営業しています。

春を満喫したい方は「奥多摩へ来させえ。」

但し、現在2月の大雪で土砂崩れの所があり、おこしの際は、確認してからお出かけください。

(武田 和代)



「奥多摩湖」 星野泰造 画

## 施設案内

### コーヒーとギャラリー 喫茶・山鳩

店内は、奥多摩の文化を彷彿と感じさせる雰囲気です。まさに“ギャラリー奥多摩”

山行帰りの一休みにコーヒー&ビールが美味しい。

地元・鳩ノ巣に住む方々の文化芸術の発信基地的存在でもある。喫茶+アグリカルチャー、これにはわけありで、シーズンともなれば、季節の野菜が新田山ファームや川口農園から届く。

なお、山歩きのベースキャンプとして宿泊できる山鳩山荘があります。

所在地 奥多摩町棚沢 鳩ノ巣駅すぐ下  
電話 0428-85-2158  
定休日 月曜日  
営業時間 10時30分～18時

### 登山・ハイカーの方々へ

- 奥多摩むかしみちは、大雪による崩壊箇所があり、生活道路を除き、9月末日まで全面通行止めです。
- 白丸湖右岸の数馬峽橋～鳩ノ巣方面の遊歩道も引き続き通行止めです。
- 今期の大雪のため、登山道が荒れています。入山前に町役場や当観光協会、奥多摩ビジターセンター等のHPで事前にご確認ください。

平成26年度

### 登山・ハイキング会員募集

奥多摩観光協会では、当協会が主催するイベントの参加者を募集しています。

26年度会費1,000円で年5回参加すれば、奥多摩温泉「もえぎの湯」の無料券(700円相当)をプレゼントします。ただし、各回参加費700円。

会員登録は、最初に参加するイベント当日に手続きを行って下さい。詳しくはJR奥多摩駅前にある観光案内所にお問い合わせください。

電話 0428-83-2152

次号発行予定：平成26年7月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会  
住所 〒198-0212 奥多摩町 氷川 210  
電話 0428-83-2152 Fax 0428-83-2789  
編集 名人・達人観光ガイドの会